

阿寒摩周国立公園における西別岳の夏季の高山性植物の観察

石狩市 細川 音治・石狩市 佐藤 広行

阿寒湖周辺の植物学的研究は、マリモの和名をつけたことで知られる川上瀧彌に始まる(川上 1898a, 1898b)。その後、多くの学者によって周辺の阿寒の植物相について調査されてきた(五十嵐 1933, 館脇 1934, 細川 1990, 高橋ほか 1992, 辻井 1992, 佐藤 1994, 滝田 2001, 佐藤 2007)。1934年には阿寒国立公園に指定され、2017年8月4日に国立公園域の拡張に伴い阿寒国立公園から阿寒摩周国立公園へ改称された。西別岳は阿寒摩周国立公園の第一種特別地域に指定され、摩周湖カルデラ内部と摩周岳は特別保護区に指定された。特に西別岳は標高 799.8m の比較的容易に登頂できる山であるが(図 1)、その高山植物は、北海道大学名誉教授であった館脇操博士をして「屈斜路、摩周山彙中最も優れたもの」と言わしめるほどで(館脇 1934)、豊かな植物相をもつ故にしばしば盗掘の被害があり、「盗掘アニマル横

行 銀座で売られる‘西別岳の花’群落根こそぎ、ほとんどが再生は困難」と題した記事が北海道新聞に掲載されるようなこともあった(三浦 1973)。

西別岳の植物相については館脇(1934)のほか佐藤(1994)により調べられているが、これ以降は西別岳に限った調査報告は無い。今回の公園区域の拡大にとどまらず、今後、国立公園が更に拡大指定されることがあれば、観光客がさらに増加し、それに伴って高山性の植物の攪乱や盗掘などの被害が生じる可能性がある。そこで2017年夏に、西別岳の登山道沿いで見られる高山性植物に着目して現状の調査を行った。また、今回観察された植物を含め、これまで報告のあった植物についてまとめた。我国の国立公園では個別に国立公園指定植物が選定されているが(環境庁 1980)、阿寒国立公園にどのような指定植物があるのか、また観察された植物の中から環境省と北海道のレッドデータブックに指定されているものを抽出した。さらに、日本の高山性の植物には千島列島やカムチャツカ半島、アラスカを起源とする周極要素の植物も分布していることが知られており(佐藤 2007)、西別岳で見られる高山性の植物が千島列島産の植物とどれだけ類似性が見られるのかについて考察した。



図 1 西別岳山頂 摩周湖、摩周岳が近い